

# 第28号 すいかずら

General Incorporated Association  
Shrine and Temple  
Architectural Decoration  
Heritage Skill Association

平成31年3月発行  
編集：(一社)社寺建造物美術保存技術協会  
発行人：アートキンソン デービッド マーク  
〒108-0014 東京都港区芝4-4-5-3F  
（小西美術工芸社内（事務局））  
Tel:03-5765-1481 Fax:03-3455-9250  
http://shabikyo.com/

## 「五部会制のスタート」「新人研修の実施」をしました

平成30年度より今まで三部会制で行ってきました研修を、部門を細分化し新たに「漆塗部会」「彩色部会」「剥落止め部会」「単色塗部会」「金具部会」の五部会としてスタートすることとしました。

部会を細分化することによって、より内容を充実し、実際の業務に沿った形で研修を行う事を目的としております。

その他、新たに雇い入れた技術者を対象とした「新規採用者のための文化財修理研修会」を行いました。

文化財修理現場で作業を行う技術者として最低限必要とする知識や、修理現場での安全対策など、文化財修理現場という特殊な業界で差別化を図っていく為には必要な研修ではないかと思われまます。

文化財建造物装飾に関わる伝統技術の継承・発展のため、更なる活動の実を図ってまいりますので、今後とも当協会の活動に積極的なご参加、ご協力をいただけますようよろしくお願い致します。

## 「五社協定」の締結を行いました

平成30年10月4日に行われました協定締結式に於きまして、二戸市・岩手県浄法寺漆生産組合・日本うるし掻き技術保存会・公益財団法人日光社寺文化財保存会・当協会との間で、国指定文化財建造物保存修復による浄法寺漆振興の連携に関する協定を締結致しました。

締結の目的としまして、相互に連携し取り組むことにより、国指定文化財建造物修復に使用する浄法寺漆の需給安定化に努めることが出来且つ、浄法寺漆振興の発展に繋がることが出来る事を期待し、協定の締結が行われました。

今後、定期的に相互の情報や意見交換を行う事が予定されております。

国指定文化財建造物修復に使用する浄法寺漆が安定的に供給されるよう、当協会としましても最大限尽力し努めてまいりますと思っております。



## ● 平成30年度 年間事業報告 ●

平成30年	活動 (●は国庫補助事業)	場 所
5月11日	第1回 理事会	京都 元山王小学校内 ふれあいサロン
5月11日	通常総会 ・平成29年度事業報告及び決算報告 ・平成30年度事業計画及び予算承認 ・五部会研修内容の報告 他	京都 元山王小学校内 ふれあいサロン
6月13日	京都府文化財所有者等連絡協議会 総会	京都 ハイアットリージェンシー京都
6月25日～26日	●新規採用者のための文化財修理研修会	東京 (一社)日本建築学会 会議室
7月13日	第2回 理事会	京都 元山王小学校内 ふれあいサロン
8月6日	●剥落止め技術研修会	京都 京都市文化財建造物保存技術研修センター 2階 第2会議室
8月27日	●金箔資材研修会	金沢 金沢市立安江金箔工芸館 研修室 (座学) 高岡製箔(株) 工場 (金箔製作見学及び製作体験)
8月28日	文化財修理技術保存連盟 編集会議 出席	京都 京都タワーホテル
10月19日	第3回 理事会	京都 社美協事務所
10月27日～28日	文化庁日本の技体験フェア 「ふれてみよう! 文化財を守り続けてきた匠の技」 展示・体験	静岡 南熱海マリンホール
11月16日	●建造物装飾修理用資材研修会	大阪 ホルベイン工業(株) 枚岡工場 奈良 錦光園
11月16日	臨時総会	大阪 ホテル・アゴーラ リージェンシー堺
11月17日	●会員研修会	大阪 泉穴師神社・天野山金剛寺
12月20日	京都府文化財所有者連絡協議会京都府研修会	京都 京都文化博物館 6階会議室
<b>平成31年</b>		
1月16日	文化財修理技術保存連盟 編集会議 出席	京都 京都市文化財建造物保存技術研修センター
1月18日	第4回 理事会	京都 社美協事務所
1月21日～26日	●固有技術向上研修会 (単色塗研修 第I期)	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
1月21日	●固有技術向上研修会 (金具研修)	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
2月12日～16日	●固有技術向上研修会 (単色塗研修 第II期)	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
2月27日	文化財修理技術保存連盟 編集会議 出席	京都 京都市文化財建造物保存技術研修センター
3月10日	●上級技能者のための研修会	京都 キャンパスプラザ京都 2階 第一会議室

社美協は現在、協会として改革を進めています。

今年の4月から会員数はさらに増えて20社となり、十年前の1.5倍以上増えています。国指定文化財の修理に関わっている全国の全事業社に会員になって頂き、業界の健全たる発展と責任ある施工を徹底しながら、協会の機能を強化しています。

また、協会の運営も大きく進歩しています。去年より新規採用者のための文化財修理研修会を行いました。文化財修理のイロハを勉強すると同時に、建設現場で働く準会員に対して安全衛生に関する国の規制を研修しました。ルールに従うことはもちろん大事ですが、何よりも、職人の命に関わる安全面や一人ひとりの健康を守るといった極めて価値の高い本質的な意味合いを含んでいます。

会員各社は、協会の規則変更によって原則正社員をもって施工をすることになりました。取得するのに長い年月を必要とする熟練した技術を担保することは、安定的な雇用環境の重要性が不可欠です。文化財所有者様にとっても、会員各社へ工事を依頼することで技術が保証されている職人が施工を担当しますので、安心しお任せいただけると思います。

平成31年3月に、会員各社の所属準会員より上級技能者を認定します。上級技能者とは「原則16年以上の文化財修理の経験者、且つその中で指定文化財修理の責任者としての経験が豊富で、確かな技術を有する者」と定義されています。協会には209名の準会員が所属し、その中から約22%に相当する47名が上級技能者として認定される予定です。これからは、責任者の立場を確立して、その重要性和役割を認知していただく努力をして参ります。順次、初級から中級、准上級の認定制度も実行していきますが、認定制度が確立されるまでには時間がかかります。最も重要な上級者認定制度を先行して実施することで、指導者としての技術の徹底を図りたいと考えています。

社美協は、漆の安定供給にも力を入れています。平成30年10月4日に五社協定を締結しました。需要者と供給者が定期的にしつかりと意見交換をして、双方で問題を解決していくことが目的です。文化庁が必要としている年間2.2トンの供給が安定的に供給されることを目指しています。

社美協としては、健全な形で技術が継承されるように、職人文化の発展を第一に考えて、文化財の貢献に努めて参ります。宜しくお願い申し上げます。

代表理事 アトキンソン デービッド マーク

## 平成31年度社寺建造物装飾技術者事業計画（国庫補助事業）

### 1. 建造物装飾修理用資材研修会＜対象：中級・上級技術者＞

建造物装飾修理に欠かせない材料についての研究・調査や、関係する現場見学及び講師を招いてその現状、問題点を検討し改善策をたて、今後の修理に活かす。

### 2. 後継者養成実技研修会＜対象：初級～中級＞

文化財建造物装飾の基礎知識向上の為に、今年度も引き続き「座学研修」を行う。幅広い知識を習得することで将来の後継者養成に繋げる。

### 3. 会員研修会

各地の古社寺を訪ねて、伝統的建造物に於ける装飾分野の研鑽を深め、日本文化へさらなる広い視野をもった人材を養成する。

### 4. 固有技術向上研修会

「漆塗」「彩色」「単色塗」「剥落止め」「金具」各専門分野の技術研修会の実施。

五部会研修の取り組み内容

◇漆塗部会、彩色部会：公益財団法人日光社寺文化財保存会との共同研修

◇単色塗部会、金具部会：H30年の継続研修（車折神社境内 芸能神社本殿での現場研修）

◇剥落止め部会：実施工例を基にした意見交換

○ホームページの運用見直し

○報告書と会報「すいかずら」による研修事業の成果報告。

① 伝承者の育成

② 技術・技能の練磨

③ 刊記録作成

## 「新規採用者のための文化財修理研修会」

期 間：平成30年6月25日～6月26日  
 講 師：山田貴久氏（財中小建設業特別教育協会）、鳴海祥博氏（文化財建造物保存修理技術者）  
 場 所：一般社団法人日本建築学会 会議室（東京都港区）  
 研 修 生：23名



文化財修理に従事する技術者として心得ておくべき「文化財修理の基礎知識」について研修を行いました。初日は「文化財修理に必要な基礎知識」という事で「何を」「何故」「どのように」守り伝えるのか、修理技術者の役割とは何か。その第一歩の研修と考え今年度より実施いたしました。

二日目は「文化財修理現場における心得」ということで、新規採用者が文化財修理現場にて安全衛生の知識を欠いたまま未経験の作業を行うと労働災害に繋がりがかねません。今回は、文化財修理現場における業務に従事する新規採用者に共通します事項につきまして研修を実施しました。

## 「剥落止め技術研修会」

期 間：平成30年8月6日  
 講 師：馬場良治氏（選定保存技術「建造物彩色」保持者）、鶴岡典慶氏（京都府教育庁指導部文化財保護課建造物担当課長）、横田敏行氏（㈱小西美術工藝社）  
 場 所：京都市文化財建造物保存技術研修センター  
 研 修 生：木村広名（㈱片山）、多田牧央、伴鈴子（宍川面美術研究所）、佐藤圭寿、渋谷大輔、紀野菜奈絵（㈱小西美術工藝社）、久安敬三、北山潤、亀高奈津子（宍彩色設計）、余江岳央（㈱さわの道玄）、中嶋正起（㈱若林芸舎）



本年より新たに設立しました「剥落止め部門」の研修会を行いました。講師に選定保存技術「建造物彩色」保持者 馬場良治氏、京都府教育庁指導部文化財保護課建造物担当課長 鶴岡典慶氏、㈱小西美術工藝社 横田敏行氏をお招きし、文化財における剥落止め工事に関する講義並びに平成30年度実施平等院鳳凰堂内で行われた剥落止め工事に関してのご講義をいただきました。

貴重な施工中写真や施工時の苦慮、工夫や施工に關しての意見など頂きました。後半は講師も交えた意見交換を行いました。

## 「金箔資材研修会」

期 間：平成30年8月27日  
 講 師：北野信彦氏（龍谷大学 教授）（座学）  
 場 所：金沢市立安江金箔工芸館 研修室（座学）・高岡製箔(株) 工場（金箔製作見学及び製作体験）  
 研 修 生：福田寛子、荒川明穂（宍川面美術研究所）、遠藤理栄（岸野美術漆工業(株)）、表雄一郎、山田洋、菅原健  
 （株）小西美術工芸社）、齋藤潮美（宍齋藤漆工芸）、砺波高士（株）さわの道玄）、吉村拓磨（株）はせがわ美  
 術工芸）、邑田亨（邑田漆芸(株)）

本年度より、日光社寺文化財保存会と合同での研修を行う事となりました。

第一回目として今回は、龍谷大学教授 北野信彦氏による座学研修と、高岡製箔(株)工場にて、金箔製作見学及び金箔製作体験しました。

座学研修の前に金沢市立安江金箔工芸館にて、箔製作の歴史、製作工程、製作道具などの見学をし、同会館、研修室で北野先生による座学研修を行い高岡製箔(株)様の工場に移動し実際の箔打ち機での「打ち前」（箔打ち機での打ち延ばし作業）「抜き仕事」「移し仕事」（裁断作業）等を行いました。

その後、箔職人さんと普段修復現場で使用している箔の制作のご苦労や製作者と使用者との意見交換などを行いました。



## 「建造物装飾修理用資材研修会」

期 間：平成30年11月16日  
 場 所：大阪 ホルペイン工業(株) 枚岡工場・奈良 錦光園  
 研 修 生：鈴木奈々、中川敦子（宍川面美術研究所）、東坂一（株）小西美術工芸社）、小野村直人、山本真由美（有彩色設計）、河喜多裕佳、津森憲仁、中川大輔、林原由果（株）さわの道玄）、島津亮介（有島津漆彩色工房）、田鹿秀夫（株）はせがわ美術工芸）、新谷和義、政井明（株）若林工芸舎）

今年度の建造物装飾修理用資材研修会では、文化財修理材料としては稀に使用しております神社仏閣の彩色用に開発された水性アクリル絵の具（風雅）の製造元でもあるホルペイン工業(株)と、日本でも数少ないなった手作り墨工房でもある錦光園を見学させていただきました。

午前に訪問しましたホルペイン工業(株)では、水性アクリル絵具の製造工程の見学、風雅の製造に関するご説明等お話を伺いました。

午後には訪問しました奈良の錦光園では、奈良墨の歴史、製造工程などを見学し、その後実際の墨を手で握って作る『にぎり墨』の制作を体験しました。生暖かい墨を握り、墨型や研修生の指紋が付く貴重な手作りの墨づくりを経験しました。参加者研修生は、普段修復現場で使用している資材の製造を見学させていただける喜びを感じたと思います。



## 「会員研修会」

期 間：平成30年11月17日  
 場 所：大阪府泉大津市 泉穴師神社・大阪府河内長野市 金剛寺  
 参 加 者：片山富夫、片山時子（株片山）、荒木かおり（有川面美術研究所）、アトキンソン デービッド マーク（株小西美術工藝社）、小野村勇人（有彩色設計）、酒井清裕（株さかい）、澤野道玄（株さわの道玄）、田鹿秀夫（株はせがわ美術工芸）、邑田佳子（邑田漆芸株）、新谷和義、政井明（株若林工芸舎）



各地の古社寺を訪ねて、伝統建築物における装飾分野の研鑽を深め日本文化への更なる広い視野をもった人材を育成することを目的とした会員研修会ですが、今年度は大阪府泉大津市の泉穴師神社、大阪府河内長野市の天野山金剛寺を訪れました。

泉穴師神社拝殿にて正式参拝を行った後、本殿（重文）ほか2棟保存修理工事に携わった（有川面美術研究所）様にご案内頂き修復現場に関してのご説明等頂きました。その後天野山金剛寺へ移動し、金堂ほか2棟（重文）保存修理工事に携わった（株澤野道玄様）に修復現場に関してのご説明等頂きました。

## 「単色塗(搔き落とし)研修会 第Ⅰ期～第Ⅱ期」

期 間：第Ⅰ期 平成31年1月21日～26日 7名  
 第Ⅱ期 平成31年2月12～16日 7名  
 場 所：車折神社境内 芸能神社本殿  
 講 師：片山龍馬（株片山）  
 研 修 生：木村広名（株片山）、水口健太、西空翔、今川志温、大島一輝 [第Ⅰ・Ⅱ期]、神長慧 [第Ⅰ期のみ]、伊東司 [第Ⅱ期のみ]（株小西美術工藝社）、津森憲仁（株さわの道玄）



今年度の単色塗研修会では、車折神社境内芸能神社本殿の単色塗・胡粉塗の搔き落とし研修を二期に分けて行いました。

研修初日に車折神社本殿にて正式参拝を行った後研修がスタートしました。

多くの参拝者が訪れる芸能神社本殿での研修になりますので、講師の指導の細心の注意を払い養生作業も搔き落とし作業を行いました。

冬の現場作業となりましたが、通算11日間無事搔き落とし作業を終了することができました。引き続き行います塗装につきましては、次年度の単色塗研修で実施の予定です。

# 「金具(鋳金具・鑄造金具)研修会」

期 間：第Ⅰ期 平成31年1月21日  
 場 所：車折神社境内 芸能神社本殿  
 講 師：宍戸康一 (株)小西美術工藝社  
 研 修 生：橋本野生 (株)小西美術工藝社



今年度は、単色塗研修と同じ芸能神社本殿にて、鋳金具の状況確認、取外し及び欠損金具の新補に伴う型取り作業を行いました。屋根回りの金具の取外が高所作業となる為、講師の指導の元、安全配慮に努め取外作業を行いました。金具の補修、欠損分の新補につきましては、次年度で実施の予定です。

## 今年のワークショップ



普段交流機会のない他の選定保存団体の方との交流も、大変貴重な時間でした。  
 来年度は11月に沖縄で開催予定です。  
 ございます。

期間：平成30年10月27日・28日  
 場所：南熱海マリンホール(静岡県)  
 内容：展示、壁掛け飾り製作(彩色)

文化庁主催「日本の技体験フェア」は、様々な技を持つ国内の選定保存技術団体が集まり展示や実演、体験コーナーを通じてそれぞれの技術を広く一般の方に知っていただくというイベントです。

当協会では、昨年に引き続き展示で各部門の紹介を行い、他3団体と合同で「壁掛け製作体験ラリー」コーナーを設置し、当協会は、壁掛け飾りに彩色を施す「彩色体験」を(株)さわの道玄様より三名の方にご協力を頂き担当しました。

細筆を使用した彩色体験に苦慮する方もいらっしゃいましたが、子供さんからご年配の方々幅広い年代の方に彩色を体験していただくことができました。

日本の技体験フェア(静岡県熱海市)  
 ふれてみよう!文化財を守り続けてきた匠の技

新規入会 賛助会員紹介  
 鹿田喜造漆店 (京都)



また品質管理技術をしっかり継承し、文化財修復のお役に立ち続けていけますよう努力して参ります。

今後とも会員・賛助会員の皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

鹿田喜造漆店は、京都の四条河原町ほど近くに店舗を構え、漆及び漆工材料全般の卸・小売りさせて頂いております。当店の前身は、丹波にて漆を集めそれを京都へ運ぶ漆の仲買人をしておりました。一八六七年に鹿田幸道が京都市下京区塗師屋町という所わずかながら漆の販売を開始します。この塗師屋町は名前の通り、塗師屋さんがずらりと立ち並んでいた事から付けられた町名です。当時の漆産業の旺盛さを感じさせてくれます。それから三十年後の一八九七年、現在地に移転し、漆屋として創業。地元京都の塗師、蒔絵師、またその他漆に関わる方々に漆及び漆工材料の販売を開始しました。

以来約百二十年。現在では日本国内だけでなく、海外でも営業活動させて頂いております。

また最近では、少しでも漆に興味を持つ人が増えてくれる事を願い、漆塗り・金継ぎ教室なども開催しております。

昨今、日本産漆の需要は大きく伸びておりますが、漆全体の流通量は年々減少し続けております。厳しい状況下ではございますが、鹿田喜造漆店は社寺建造物美術保存技術協会の皆様方に、安心して文化財修復に取り組んで頂けるよう、漆の精製調合技術、また品質管理技術をしっかりと継承し、文化財修復のお役に立ち続けていけますよう努力して参ります。

# (一社)社寺建造物美術保存技術協会 名簿

平成31年3月

No.	企業名 (正会員)	氏名	登録部門					郵便番号	所在地	電話番号 FAX番号
			漆	彩	剥	単	金			
1	(一社)天野山文化遺産研究所	山内 章		●	●			586-0086	大阪府河内長野市天野町997	0721-55-3772 0721-55-3776
2	(株)大谷相模掾鑄造所	大谷哲秀 (大谷秀一)					●	537-0011	大阪府大阪市東成区東今里2-6-20	06-6971-6571 06-6971-6511
3	(株) 片 山	片山富夫	●	●	●	●		601-8303	京都府京都市南区吉祥院向田東町10	075-322-1236 075-316-6333
4	(有)川面美術研究所	荒木かおり		●	●			616-8242	京都府京都市右京区鳴滝本町69-2	075-464-0725 075-464-0099
5	岸野美術漆工業(株)	岸野直資	●	●				321-1404	栃木県日光市御幸町587-2	0288-53-3366 0288-54-0072
★6	京都社寺錆漆(株)	治村嘉史					●	611-0041	京都府宇治市横島町吹前85-3	0774-24-4489 0774-24-4489
★7	後藤社寺錆金具製作所	後藤正嗣					●	607-8302	京都府京都市山科区西野山欠ノ上町1-39	075-593-4842 075-593-4844
8	(株)小西美術工芸社	アトキンソン デービッドマーク	●	●	●	●	●	108-0014	東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階	03-5765-1481 03-3455-9250
9	(有)彩色設計	小野村勇人		●	●			615-8072	京都府京都市西京区桂木ノ下町25-8	075-201-4582 075-201-4582
10	(有)齋藤漆工芸	齋藤敏彦	●	●				250-0631	神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-381	0460-84-2802 0460-84-0770
11	(株)さか い	酒井清裕	●				●	520-2331	滋賀県野洲市小篠原7-1	0775-87-1178 0775-87-5355
12	(有)佐和漆工芸社	伊原建樹	●	●	●			321-1423	栃木県日光市七里880-5	0288-53-3106 0288-53-3118
13	(株)さわの道玄	澤野道玄	●	●	●	●		604-8232	京都府京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491	075-254-3885 075-254-3886
14	(一財)塩尻・木曾地域 地場産業振興センター	小口利幸 (太田洋志)	●					399-6302	長野県塩尻市木曾平沢2272-7	0264-34-3888 0264-34-2832
15	(有)島津漆彩色工房	島津達也	●	●	●	●		731-5151	広島県広島市佐伯区五日市町大字上河内791-3	082-208-2407 082-208-2407
16	(株)はせがわ美術工芸	秋吉泰良 (田鹿秀夫)	●					822-0011	福岡県直方市大字中泉今林885-26	0949-24-7211 0949-24-7221
17	邑田漆芸(株)	邑田正廣	●			●		607-8355	京都府京都市山科区西野大鳥井町118-45	075-591-4137 075-502-0638
18	(株)森本錆金具製作所	森本安之助					●	600-8321	京都府京都市下京区楊梅通西洞院東入る八百屋町59	075-351-3772 075-361-8877
19	(有)横山金具工房	横山智明					●	601-8394	京都府京都市南区吉祥院中河原里北町14-3	075-325-4861 075-325-4862
20	(株)若林工芸舎	新谷和義	●	●	●	●	●	600-8218	京都府京都市下京区七条通新町東入西境町148-5	075-371-3137 075-371-3140
No.	企業名 (賛助会員)	氏名						郵便番号	所在地	電話番号 FAX番号
1	(株)堤浅吉漆店	堤 孝						600-8098	京都府京都市下京区間之町松原上ル稲荷町540	075-351-6279 075-351-6270
2	ナカガワ胡粉絵具(株)	中川晴雄						611-0013	京都府宇治市菟道池山24	0774-23-2266 0774-20-4666
3	NPO法人丹波漆	岡本嘉明						629-1302	京都府福知山市夜久野町今西中710	080-5700-4363
4	NPO法人麗潤館	矢崎孝子						319-3526	茨城県久慈郡大子町大子705	0295-76-8777 0295-76-8779
5	鹿田喜造漆店	鹿田 明						600-8042	京都府京都市下京区麩屋町通仏光寺上る俵屋町290	075-351-7106 075-351-3166

★は2019年度新規入会会員

認定保存技術(建造物装飾)認定団体  
 一般社団法人 社寺建造物美術保存技術協会 印  
 〒108-0014  
 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3F  
 (株)小西美術工芸社内 (事務局)  
 Tel: 03-5765-1481 Fax: 03-3455-9250



代表理事の交代に伴い事務局も移転し、新たに今年度より社美協事務をさせて頂くこととなりました。至らない点も多い1年でしたが、次年度も引き続きよろしく願いいたします。(S)